

大科医立府 携帯画像で遠隔診断

大科医立府

全国初
来年度

府内各病院と連携

京都府立医科大付属

病院（京都市上京区）

は17日、携帯電話で撮影した画像による全国初の遠隔診断システムを、来年度から眼科で運用すると発表した。緊急時や遠隔地でも専門医による質の高い医療を提供するのが狙いという。

府内の診療所などの医師が患者の眼球を携帯電話で撮影、画像を府の光ファイバー網を使い専用サーバーに送信する。

運用開始時には、府医大病院や京都大医学部付属病院（左京区）、府立与謝の海病院（与謝野町）の3病院がサーバーにアクセスし、専門医が診療所の医師に診断結果を伝え

る。

放置すれば悪化する緑内障や加齢黄斑変性症など、目の疾患の多くは専門医による画像診断が重要で、遠隔診断なら患者に時間がかかっても受診できる。目の外傷や緑内障の発作などの緊急時の一次診療としても期待で

きるという。

府医大の木下茂教授（眼科）は「携帯電話の撮影機能の向上で、大学病院と同じレベルの診断が可能になりつつある。多くの病院がネットワークに参加できるようにしたい」と話している。

（松尾浩道）